

第 78 回政策研究大学院大学経営協議会議事要旨

- 日 時 : 2019 年 12 月 19 日 (木) 15 : 31~17 : 07
- 場 所 : 政策研究大学院大学 会議室 3A
- 出席者 :
 - 〔学外委員〕
石田委員、今井委員、奥委員、名取委員、長谷川委員、板東委員、
 - 〔学内委員〕
田中学長、増山理事・副学長、横道理事・副学長、小島理事、園部副学長、高梨副学長、道下副学長、渡邊大学運営局長
 - 〔オブザーバー〕 宇佐美監事、林(礼)監事、
- 欠席者 :
 - 〔学外委員〕 嶋津委員、林(文)委員、林(康)委員、藪中委員
 - 〔学内委員〕 角南学長特別補佐、

I. 審議事項

1. 監事候補者選考手続き及び政策研究大学院大学大学監事候補者選考委員会規程について
田中学長から、監事候補者選考手続き及び政策研究大学院大学大学監事候補者選考委員会規程について説明があり、審議の結果、これを了承した。
2. その他
特になし。

II. 報告事項

1. 2018 年度財務報告書について
大学運営局長から、2018 年度財務報告書を作成した旨の報告があった。

◆主な意見等は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)
○：SDGs や ESG (環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance)) の観点を取り入れたほうがいい。
2. 2018 年度に係る業務の実績に関する評価結果について
大学運営局長から、2018 年度に係る業務の実績に関する評価結果の報告があった。
3. GRIPS International Advisory Committee (IAC)の開催について
横道理事から、GRIPS International Advisory Committee (IAC)の開催について報告があった。

◆主な意見等は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)
○：IAC メンバーは固定メンバーで継続か。
△：メンバーは、3 年前と比べて 2 名変更している。将来的には、ジェンダーを考慮して女性委員に入っていただく、国・地域のバランスを考慮してアジア以外の方にも入っていただくことを検討したい。
4. 新たな教育プログラム等について

田中学長から、新たなプログラム等の創設について報告があった。

◆主な意見等は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

○：データサイエンスについては、例えばマクロ経済、ミクロ経済で、市場リスク計量化やモデル化というところまで具体的な話として入っていくものか。金融一般でいうと、リスクの計量化は試行錯誤の段階であり、ニーズはあると思う。

△：論文作成段階でそういった研究をする学生が出てくることを期待しているが、今回取り組もうとしていることは、データサイエンスやデータ分析に親しんでもらうということで、多くの学生がそのアプローチを体験し、その面白みを理解し、さらに深く勉強したいという流れを全体的につくることを目的としており、かなりイントロダクトリーなレベルから段階的に履修できる構成にしている。ご指摘のトピックを教えられるかはケース・バイ・ケースとなる。また、経済学系の講義でやってもらうことになると思われる。

△：公共政策をやっていく以上は、基礎的なデータの扱い方やある程度の計量分析結果の評価などがわかる程度までの理解は持ってほしいと考えている。

○：新たな教育プログラムの充実は非常に結構なことだと思うが、政策研究院では政策形成だけではなく、外交に関する教育プログラムもある。それとうまく関係づけることでより新たなプログラムが多彩なものになると思われる。

△：国際的指導力育成プログラムは、政策研究院の外交アカデミーの授業を活用させていただく。本学の教員ではない日本中の専門家や実務家が講師を務めているため、中核的に活用していく。

5. その他

特になし。

III. 協議事項

1. GRIPS ビジョン 2030 について

田中学長から、現在 GRIPS ビジョン 2030 の策定に向け検討中であること、関連して、道下副学長にアメリカ、園部副学長にアジア、アフリカに出張してもらった旨の発言と、両副学長から出張報告があり、協議が行われた。

◆主な意見等は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

○：修了生が各国で活躍しているが、学生数が伸びていないというのは、プロモーションが少なかったという結論なのかと思う。提案のあった「GRIPS リーダーフォーラム」(学生獲得のターゲットとする国々から、人事院のような部局の役職者やその他のキーパーソン、閣僚級レベルで活躍する修了生を招聘し、フォーラムを開催する)について、経費やセキュリティの面から考えると招聘ではなく、こちらから行って実施したほうが効率的にも思われるため、検討いただきたい。

△：アフリカでは隣国であっても交通手段が悪い場合もあり、現地での開催は困難に思われるが、今後検討したい。

○：海外の大学では国際的な卒業生のネットワークを卒業生自身が活用している。アジア、アフリカ訪問で、本学の修了生ネットワークはどれ程度評価・活用されていると感じたか。

△：修了生の報告によると、メーリングリストを使って、ある政策が先行している国の実情を聞くなどの情報交換を行っている。

○：志願者の減少問題あるいは定員充足問題というのは、本学創設以来抱えてきた問題である。これまで様々な努力で定員充足する状況を実現してきたが、今再び定員

充足に努力しなければいけない時期が来たということをはっきり認識し、危機感を持ち、定員充足が大事だということを再びお互い肝に銘ずることが必要である。

2. その他

田中学長から、SDGs アワードを選考中である旨の報告があり、アワード受賞者招聘
その他フォーラム等の実施のための寄附のお願いがあった。

以上